

ほし 彩星 だより 第92号



若年性認知症家族会・彩星の会会報 平成30年7月14日号

〒160-0022 新宿区新宿1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ 605

TEL 03-5919-4185/FAX 03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

巻頭言

「目標を与えてくれた 彩星の会に感謝」



立教大学コミュニティ福祉学部助教 田中 悠美子

賛助会員になって13年目になりました。今回、このような機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。彩星の会での出会いや学び、若年認知症のご本人やご家族へのサポートについて私なりに振り返ってみたいと思います。

まず、私について紹介します。現在、立教大学コミュニティ福祉学部の助教として、社会福祉士を育てる仕事や社会福祉の研究をしています。社会福祉士、介護福祉士の福祉職としてデイサービスで働いた経験や、大学院時代に、彩星の会やNPO法人若年認知症サポートセンターでお仕事をさせていただきました。

彩星の会との出会い

大学生のときに初めて参加をしました。真剣な話し合いもされていましたが、何よりも衝撃的だったのは、定例会のあとの飲み会でした。お酒を飲みながら、楽しく笑って、大変な盛り上がりでした。ここは、気心知れた仲間との心の拠り所であることを痛感しました。また、一泊旅行に一緒した際に、カラオケ大会や朝方まで続く本音トークなど、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。ご本人やご家族の笑顔は、今も胸にしっかり刻まれています。

若年認知症ねりまの会 MARINE（マリネ）の立ち上げ

2009年、当時彩星の会代表をしておられた干場さんから、練馬区で若年認知症のグループの立ち上げの提案を受けて、企画から参加させていただきました。現在、会員70名程で、個別相談やサロン活動しております。そして、今年4月から代表に就任いたしました。自分にできることは何か問い続けながら使命を果たしていきたいです。

家庭全体を支えることの大切さ

私のご本人やご家族のお話を聴く時に大切にしていることは、個々の思いを知ること、そして、家庭全体（夫婦、親子、単身者と世帯は多様である）として

何が求められているのか、生活上の課題について一緒に考えることです。解決したり、向き合うのはその人自身ですので、そのための応援を力の限りしたいと思っています。特に、同じ悩みを持つ仲間と出会える機会を創る、効果的に繋ぐことも大切な役割ではないかと思っています。

子ども世代のネットワークづくり

子ども世代の悩みに気づき、2012年からMARINEにおいて若年認知症と向きあう子ども世代のつどいを開始しました。現在、40名程の子ども世代が繋がり、交流をしています。多くは20代30代の娘さん、息子さんの立場の方です。最近では、介護と子育てを同時期におこなうダブルケアの方も増えてきました。学齢期のヤングケアラーもいます。子ども世代特有の悩みに応えていけるように活動を続けていきたいです。

おわりに

彩星の会に出会わなかったら、今の私はいないといっても過言ではありません。定例会で語られる苦しみの要因が、相談できる人がいない、サービスが使えないなど、社会のしくみであることも多く、私はそれについて研究や実践する意欲や目標をいただきました。13年前と比べると、様々なサポートネットワークができましたが、未だ完成には至っていないと感じています。なので、これからも彩星の会には、心が温まるような希望の光を照らしてくれる存在であってほしいと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。皆様のご多幸を祈念いたします。



5月定例会(新宿御苑)報告

「新宿御苑定例会に参加して」

5/27(日)、新宿御苑で行われた定例会は、抜けるような青空の下、目に眩しい木々の緑に囲まれて始まりました。



私は初めての参加でしたが、この5月の定例会は、なぜか毎回晴天に恵まれるのだという話を聞き、会員のどなたかが「超強力」な「晴女もしくは晴男」であるに違いない、と、皆さまの顔を見回してしまいました。

風薫る、という言葉がぴったりの、心地よい風が吹く中、世話人方が朝9時から押さえてくださったユリノキの向かいの木の下に、11時過ぎから、ご本人、ご家族、サポーターの皆さんが集まり始め、おもしろい時間を過ごしなが、開会の時間を待っていました。

その時、大きな木の根に腰かけておだやかに過ごしておられたはずの、あるご本人を、その場にいた皆が見失ってしまうというハプニング。お元気な方なので、どこか遠くへ行ってしまわれたのではないかと、皆で手分けして探していると、ご本人は「飽きちゃったので、その辺を少し歩いてきたよ」と戻ってこられました。私自身が、自分の経験などから、どんどん遠くへ歩いて行ってしまうものだ、という思い込みがあったこと、若年性認知症の方と接した経験を豊富に持つ人間がたくさんいる場であっても、ちょっとした間に、こういったことが起こることを、改めて理解するとともに、どんな場でも、ご本人の気持ちを押し量ること、行動に気を配ることの難しさ、そして大切さを痛感しました。

その後は、大きな木の下で、皆で楽しくランチタイム。彩星の会以外での活動についてや、日常生活での工夫、例えば外出する時には、お互いに目立つ色の服装をしていることなど、情報交換したり、日頃の思いを語ったりしました。

食事が落ち着いたところで、参加者全員による簡単な自己紹介タイム。一言ずつでしたが、皆さんのお話に、笑ったりうなずいたり、素敵なひとときでした。自称「晴女」の私、また来年も、この新宿御苑定例会に参加できたらと、おもっています。(大野 裕子 記)

「二次会報告」

二次会会場は新宿御苑近くの中華料理店でした。いつもお世話になっているアドナイン社（ホームページ制作依頼先）の社長以下お三方も参加して総勢24名になりました。

少々狭かったものの、あちらこちらで小さなグループができて賑やかに語り合いました。

そして19名がカラオケ店へ移動、思い切り体を動かせる広い部屋で声を張り上げました。ご夫婦が肩を寄せ合って歌う姿には皆感動、暖かな拍手を送りました。

消化しきれない程の曲の予約を残したまま最後は“YMCA”の曲で皆総立ちになって踊りながら歌って西城秀樹を偲び(?)しました。

一年ぶりに参加した私は皆さんのパワーに圧倒されました。もっとも“YMCA”は私も一緒に声を枯らしながら踊ったのですが・・・。(F)



伊豆一泊旅行に行ってきました！

彩星の会の一泊旅行に車椅子の夫とともに参加しました。



夫の呼吸器 ASV（睡眠時無呼吸症候群用）のバッグに、紙パンツとパッドの山一式の大荷物。でも集合場所の東京駅からはマイクロバスに乗っての移動ですから楽勝です。

朝、集合場所に着くと、旅行と一緒に参加される厚東先生が「今日、ボクは、伊藤さんのご主人と一緒に風呂に入ることにしていますので、よろしく願いします」とおっしゃられました。あら、そうなんだ～。家族風呂に入るつもりでいましたが、それなら、遠慮なくお願いしようかなあ♪

マイクロバスで片道約4時間、伊豆半島の川奈の旅館を貸し切り。参加者は、介護家族、介護卒業者、認知症医療に携わっている医師、それに当事者本人が4人、総勢25名ぐらいでしたでしょうか？本人4人のうち3人は妻と一緒に参加です。

東京駅まで奥様が見送りに来られて、その後、一人で参加された樋口さんは、旅行の間中、夫の車椅子を押したり、車椅子のバスへの積み込み作業を買って出てくださいました。

旅館で、現地在住の若年認知症のご本人と奥様の二人が夕食交流会に合流。また、現地の病院などに勤務している作業療法士さん男女合わせて8名＋幼児1名がボランティアに駆けつけてくれました。

午後4時頃、旅館に到着してしばらく休んだ後、厚東先生と男性ボランティアさんたちが、ドヤドヤと部屋まで夫を迎えに。何が何だかわからないうちに（いや、ちゃんと「これからお風呂にはいるよ」と伝えていますが、すぐに忘れるので）夫は風呂場へ拉致されて行きましたが、風呂から出てきた夫は、とても良い表情をしていました。その間に、私も、他のご本人連れの奥様方も、夫たちをボランティアの皆さんに任せて、

女湯でのんびり浸かることができました。

ところが、夕食の段になって、また3～4人で夫を誘いに来てくださった時には、夫はかたくなに拒否して、立ち上がってくれません。ボランティアの梶原さんが、「奥さん、ボクがご主人とここに一緒に居ますから、先に行って、食べていてくださいよ。」と勧めてくれたので、梶原さんと夫を残して、いったん階下の宴会場へ向かいました。

夕食宴会が始り、少ししたところで、2階の部屋へ様子を見に行くと、部屋の入口でまだ座り込んでいます。

「夕飯の準備ができましたよ～。さあ、食べに行きましょう～」と水を向けると、ようやく「じゃあ、行こうか」と立ち上がってくれたのです。

夕食宴会で、舟盛りの刺身や金目鯛の煮つけなどを夫はもりもり食べてくれました。

続いてカラオケでは、ご本人たちも歌を熱唱し、耳が聞こえない夫は歌声も音楽もわからないけれども、一緒に手を振り振り、大いに盛り上がりました。一次会が終了した後は、場所を二階の部屋に移して二次会です。

夫一人を部屋の簡易ベッドに寝かせて、ちょっとだけ二次会の部屋に顔を出すと、朝から車椅子を押してくれた樋口さんが、「ご主人、どうされました？ いや、ずっと車椅子を押していたので、居ないと、なんだか寂しくて・・・」と声をかけてくれました。それで、樋口さんを伴って自室へ戻り、「隣の部屋でみんなと一緒に話をしようか？」と夫を誘うと、起きてきて、二次会が行われている隣の部屋へ来て、午後11時ぐらいまで、みんなの輪の中に一緒に居ました。

翌朝の美味しい朝ごはんを食べてから、午前9時半に宿を出て、城ヶ崎海岸へ。断崖絶壁の門脇吊橋（長さ48m、高さ23m）の上を夫は車椅子を押してもらって渡りました。最高に良いお天気に恵まれ、海と空の青さがまぶしかった！

この後、大室山の周りをバスで周り、「伊豆高原駅の駅ぐらんぼーと」で、旅館が用意してくれた名物イカメンチカツ弁当の昼食。デザートに、夫はサマーオレンジソフトクリームを、私はふわふわの温かい揚げパンに冷たいミルクソフトクリームがはさんだものを食べました。

帰りは事故渋滞に巻き込まれ、東京駅到着が午後4時半過ぎ。マイクロバスから皆さん順次降りて、残るは夫と私だけ。ところが、ここで夫がバスから降りてくれない。(´・`Д´・`)
しかたなく、窓際に座っていた夫の膝の上に乗らんばかりにして、私が無理やり窓際の席にお尻をねじ込ん

で座ると、夫は通路側の席に移動しました。さらに補助椅子を出して、夫を補助椅子側に押して移動させ、そこから、厚東先生と青津さんが手を貸してくれて、私が後ろから夫を押すと、ようやく観念したのか、夫は素直にされるがままになって降りてくれました。こういう時は、少し時間をおけば、気分が変わってまた動いてくれるのですが、時間に制約があると気持ちが焦ります。

家族会の旅行は、皆さんが認知症の症状に慣れているメンバーなので気持ち的に楽でした。世話人の方々には、企画から、下見、バス内でのレクの準備など細々としたご手配ありがとうございました。

また、こうした機会があれば参加したいと思います。
(伊藤 照美)



介護体験談

V



『歩行訓練時の成功例』

歩行訓練をするとき、ご本人のお気に入りの「〇〇」を目標の到達場所に置く（貼る）ことによって成功するときがある。

「〇〇」→「お気に入りの写真」「好きなタレント」「可愛がっている動物」「孫の写真」など

介護体験談

VI



『使い切って捨てた塗り薬を「無くなった、盗まれた」と訴える場合の成功例』

数日前に使い切った捨てた塗り薬を「無くなった、盗まれた」と訴えた。これに対して、「薬に本人の名前を書いてその薬を見せた」ところうまくいった。使い終わっても、捨てずにおく、また訴えがあったときに名前のついたその薬を見せる。



『夫とともに』

会社員 O.H

本人：夫72歳
アルツハイマー病（平成12年）

夫は「会社員としての仕事はすべてやりきった。これからは違った道を進みたい。」と会社の早期退職制度を利用して、53歳で退職しました。

退職後は若い頃から趣味だった絵を描いて、作品展に応募する、個展を開く、自宅近くの集会所で絵画教室を始めるなど、夢を実現させていました。

退職して1年半が過ぎた頃から、気分が不安定、もの忘れが目立つようになり、絵も描かなくなっていました。

平成14年月8月、夫は医者から「アルツハイマー病」と告げられました。医師の言葉に、夫は無言でただ頷いているだけでした。

翌日からアリセプトを飲み始めると「頭がスッキリして気分がいい、アリセプトは効き目が確かだね」と喜んでいました。

夫がアルツハイマー病を認識できていないまま始まった介護生活でしたが、夫は病気について悩むこともなく、家族が病人として接することで精神的にも安定してきました。

発病から3年後、子供たちが独立し夫婦二人の生活になった頃から、散歩と外食と買い物を兼ねて、毎日1時間以上歩くことを目標に外出するようになりました。夫の健康維持とストレス発散のために始めたことでしたが、二人で歩く楽しさも加わって、この後10年余り続けました。

平成21年、通院していた病院の相談室に、若年認知症で使える公的な制度について相談すると「彩星の会が一番情報を持っていますよ」と紹介され、入会しました。

介護についての先の見えない不安がずっとありましたが、彩星の会に参加して、介護に前向きになり、覚悟もできてきました。

夫はゆっくりと進行していて、外出すると目を離すことはできませんでしたが、家での生活は問題ありませんでした。

主治医が神経内科から認知症外来の精神科医に変わりました。新しい医師に障害年金の診断書を願っていると、発病から7年経っている事に驚かれ「今、使える制度は全部申請しなさい」と言って下さり、国民障害年金二級、障害者手帳二級、介護保険要介護3を取得できました。

発病から8年目にデイサービスの利用を始めました。夫には「施設で絵の指導をしてほしい」と説得し、初日は何とか機嫌良く出かけましたが、その後は送迎車の乗車拒否、降車拒否、施設からの逃亡などの問題行動が沢山ありました。その度に職員の方達が辛抱強く対応をして下さって、5年間通所することができました。感謝しています。

平成26年、排泄の失敗が始まると急速に病状が進みました。着替えを嫌がるようになり、手伝うと激しい拒否があつて、デイサービスにパジャマで行ったこともありました。

入浴する時だけは、自分で脱いで、体も洗い、着ることもできたので、入浴後に翌日着る服を着て寝るようにしました。リハビリパンツの交換が一番難しく「工夫と忍耐」と自分に言いきかせて対応していましたが、暴力がでることもあり、その度に、もう無理と思い、落ち込みました。

ショートステイを一泊から始めました。ショートでの夫の様子は心配でしたが、私は解放感とゆっくり自分の時間がもてたことで気持ちが楽になり、夫にも優しくなりました。

半年後に二泊を希望した所、夜間のオムツ交換時に暴力を振るったので、二泊は受けられないとの返事があり、送迎の職員の冷たい対応もあって、夫が可哀そうと思いショートは止めました。

要介護5になり、週5日のデイサービスだけでは厳しくなってきました。精神的に追いつめられていた時に腰を痛めてしまい、このままでは共倒れになると思い、2年前から通院していた認知病専門の病院に入院しました。発病から14年経っていました。

夫は入院すると、家に居た時の陰しい表情から、穏やかな笑顔に変わってきました。

夫も苦しくて辛かったんだと思います。

現在は週に4日病院に行つて、昼食の介助と院内で散歩をしています。

笑顔で散歩に付き合ってくれる夫に感謝です。





*彩星だより36号(平成21年3月)に掲載された記事です。

『笑顔も泣き顔も すぐ返してくれる写し鏡』

I.Kさん

本人：妻61歳
発症：H14年頃
診断：H18年
介護度：3障害手帳：精神2級
病院デイケア3回/週、デイサービス1回/週。

私たちはコンビニエンスストアを家業として、過酷なオーバーワークで家庭生活を犠牲にして過ごしてきました。妻は夫の選んだ道をひたすらついて来てくれました。しかしながら、少しずつ病魔に侵され始めていたことに気づかずにいたのです。その上受け入れることすらできないでいたのです。

仕事上、生活上に出てくる色々な症状を“ダメな人間”としてなじったり怒ったり、お客様から向けられるクレームを更に本人に向けてぶつけてしまう。

初診のとき用意した症状のメモを見ると、悪口雑言を尽くしたものでした。家ではすさんだ日々が続き、そのつど何倍ものストレスが返ってきて、全ては私の許容のなさでした。

一方本人は、9年前から認知症で入院し続けていた母の看病に、介護認定の下りた後も、週1回通って車椅子を押していました。

地域の家族の会のOBの方から「今、してあげられることをしてあげないと、一生後悔を残しますよ」と長い介護生活の体験を聞かされ、コンビニエンスストアを廃業して居宅介護を始めて2年数か月になりました。

楽しかったこと、嫌なことも引きずらない(覚えていない)。でも「行きたい、行きたい」と言っていた箱根一泊旅行に、娘と3人でこの1月に行ってきました。その時のことを話しかけても「そうだったっけ」とニコニコ。それでも、その時を楽しんでくれていれば、その喜びは私にももらえます。

近くであった会合に、「1時間くらいで帰って来るから」と携帯を首に下げさせ、全てのカギをかけてドアチェーンをロックして出た後、会合中に電話がかかり「すぐ帰るからね」。その後マナーモードにしてバッグにしまい込み、2時間ほど延びた後、帰る途中携帯を見ると14回もコールが入っていました。

家のドアチェーンが外されてなかったもので、じっとしていてくれたんだとホッとしましたが、夕食時「この家はどこなの。家が今からなくなった。」「私、頭がおかしくなっちゃった」とボロボロ泣きだしたので、次の日のカラオケの話をしてなんとか気持ちを落ち着かせましたが、廊下の外にサンダルが置いたまま、戸の鍵は開けられたままでした。

「あ、ここから出入りしたんだ」。あなどれない、介護の失敗でした。暗くなっていたので、近所の人から教わって帰ってきたんだ。

めったに一人にして出ることはないのですが、一人でいられるのは1時間くらいが限度のようです。これからは、かわいそうですが全てのカギをダブルロックにして、携帯での連絡を密にします。

ちなみに簡単モード、安心ナビ、装備品にはSOSシールを貼っています。スーパーのガードマンさんに帰り道を教わったり、ご近所の方々にはこちらからは挨拶できませんが話しかけていただいたり、私の知らないところで皆さんにお世話になっています。

こちらが原因を作らない限り、落ち着いた生活をしてれています。ここ1年前くらいからは毎日ニコニコ元気で家事の手伝いもしてもらえ、小康状態を保っています。

彩星の会や地域の会では、いつもサポーターさんやOBの方たちと過ごさせていただき感謝しております。

今日もルンルンとデイケアに、おしゃべりに、カラオケに・・・。



★現在のI.Kさんは奥様の病状進行により彩星の会に中々出席できなくなっていますがゆうゆうスタークラブ(若年認知症サポートセンターが主宰するミニデイサービス)にはサポーターの方の支援を受けながら参加できているとのことでした。奥様は要介護4になったそうですが自宅近くの小規模多機能兼デイサービスに毎週4、5日通所しているとのこと。現在はまだ特養は考えていないとのことでしたが毎日家で妻の顔を見ながら介護できることに幸せを感じていると話しておられました。

(羽鳥 記)

全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会

第9回総会、第12回全体会参加報告

去る5月19日～20日、上記会合が東京神田で開催され森代表は両日、羽鳥は初日の総会に参加しました。

参加した家族会・支援団体は全国から30団体に上り活発な意見交換が行われました。

このうち19日の総会では、平成29年度事業報告および決算報告、平成30年度事業計画および予算案、役員改選について審議され幾つかの質問、意見が出されたあと原案通り承認されました。

事業報告のうち特に説明されたもの

① 「認知症関係当事者・支援者連絡会議」（昨年4月に京都で開催されたAD I 国際会議をきっかけに発足）への参加。昨年9月に参加団体連合によるフォーラムの開催、ホームページの開設

（<http://ninchisho-renrakukai.com>）。今後国などに政策提言していくには団体ごとの垣根を外し横のつながりを作ることが重要と認識している。

② 日本財団の助成事業「ネットワーク拡充事業」として昨年度2回交流会開催、会員数38⇒43団体に増加。今年度も2回開催予定。

③ 「全国若年認知症フォーラム」。本年3月八戸で開催。国の施策の現状報告、講演、シンポジウムなど。全国から約300名参加。今季は2019年3月10日札幌で開催される。

その後参加団体の自己紹介があり、それぞれの持つ特徴や課題を聞くことができました。彩星の会としても今後各地の家族会などと連携を図っていくことが重要なこととあらためて思いました。

（以上羽鳥彰紘 記）

二日目（20日）

小野寺議長により定刻の午前9時20分には開催された。

会場は5グループに分かれ、1グループに5、6人が配置され彩星の会のグループには「ゆうゆうスタークラブ」、「目黒認知症家族会 たけのこ」、

「ODAWARA 若年認知症サポートプロジェクト」、「東京都多摩若年性認知症総合支援センター」と「若年性認知症の人と家族と地域の支えあいの会 希望の灯」で討議することになった。なお、司会は「目黒認知症家族会 たけのこ」の代表者の竹内 弘道氏である。

議題は「若年性認知症支援コーディネーター」について。

東京都委託事業の二か所目になる「東京都若年認知症総合支援センター」（以後 支援センター）に勤務する南 真由美氏から現状の説明があった。

「役割として、若年性認知症の人のニーズに合った関係機関やサービスの担当者との調整役が主である。ご本人が自分らしい生活が継続できるよう、ご本人の生活に応じた総合的なコーディネーターとして行っている。仕事の一例として、専門医療への紹介、利用できる制度やサービスの情報提供や手続きの支援、ご本人とご家族が交流できる居場所づくりなど、多種多様である。実際は実働3人のスタッフでは限界がある。」
意見交換での内容の抜粋（一部）

- ・若年性認知症は、多様な原因疾患に加え、就労や経済問題、家族の負担などに社会的支援が充実していないため一つの課題に答えても終了はない。
 - ・若年性認知症の人は少数であることから、支援経験を積み重ねて情報収集が必須である。
 - ・産業医との連携をもっと密にすべきである。
 - ・コーディネーターが一人で課題を抱え込まないこと。関係機関との連携先を増やす。
 - ・電話相談、ほとんどの家族が「今は大丈夫」と答える。が、次の電話では「最悪」になっていることが多い。このことから定期的な状況確認電話が必要である。
- 以上抜粋の内容を含め討議の内容を「ODAWARA 若年認知症サポートプロジェクト」の峯尾 生恵（たかえ）氏が発表した。

以上、全大会の2日目は午後2時30分に終了した。

（以上文責 森義弘）

*全国には若年性認知症を支援する団体・家族会がいくつもあります。このコーナーではそれを順次ご紹介していきます。

【No.1】「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会（全国若年認知症協議会）」

最初にご紹介するのは「全国若年認知症家族会・支援者協議会」（全国協議会）です。ここは全国の団体・家族会をネットワークで結びつけよりよいケアを目指して情報の共有、行政への要望などを進めていくことが目的です。2010年に立ち上げられ現在21都府県にまたがる団体・家族会が加盟しています。彩星の会も団体の一員です。事務所も彩星の会と共同して使っています。毎年講演会、研修会、勉強会などを実施し新しい情報を交換、若年性認知症本人・家族の支援に役立ててもらっています。

電話 03-5919-4186

Mail : info@jn-support.com

URL : <http://jn-support.com/>

次回からは全国若年認知症協議会に加盟している団体を順次ご紹介していきます。

今回は第5日曜日です！

お知らせ



■7月定例会

日時：7月29（日）13：00～15：30（12：30 受付開始）

会場：『新宿区立障害者福祉センター』新宿区戸山1-22-2（別添地図参照）

家族交流会：「日ごろの疑問に専門家がお答えします」

【お答えいただく先生方（予定）】

・宮永和夫（南魚沼病院事業管理者、医師）・比留間ちづ子（若年認知症社会参加支援センタージョイント所長、作業療法士）・勝野とわ子（岩手保健医療大学教授、首都大学名誉教授）・木舟雅子（医療ソーシャルワーカー）・小野寺敦志（国際医療福祉大学大学院准教授）
（以上各氏とも彩星の会顧問）

・厚東知成（和光病院精神科医師）

*別紙質問票をお寄せください。7月23日（月）必着。（但し質問項目は一人2問以内でお願いいたします）

本人交流会：メインはスイカ割りです。

◆そのほかにも楽しいゲームなどを考えています。



■「彩星だより」の受け取りを郵送からメールでの受取りに変更しませんか？

全面カラー版で、しかも数日早く見られます。

お申込み方法：彩星の会メールアドレス hoshinokai@beach.ocn.ne.jp に

「彩星だよりメール受信希望」とお書きの上お名前を忘れずに送信してください。

■寄付金ご報告 下記の方々からご寄付をいただきました。（4月～5月）

厚く御礼申し上げます。

秋山郁子様 大谷範夫様 佐藤善雄様 手塚公枝様 中村敏子様 前田美樹様
加藤弥生様 川畑裕子様

合計額 297,200 円（2018年1月～5月）

■ご相談・ご入会は 彩星の会事務局 までご連絡ください

【相談日】月、水、金 10時30分～16時

尚、8月13（月）～8月17日（金）はお盆休みのため事務所をお休みします。

電話：03-5919-4185 FAX：03-6380-5100

携帯電話：080-5005-5298（相談室：干場）

e-mail：hoshinokai@beach.ocn.ne.jp HP：<http://www.hoshinokai.org>

■年会費 家族会員 5,000 円 賛助会員 A 5,000 円/B 3,000 円/C 10,000 円

■お申込み（ご入金）は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年性認知症家族会・彩星の会



編集後記 わたしたちは、ご本人からいただく「ありがとう」は、「愛の第一章」と思って素直にいただいて感謝しましょう。しかし、介護の現場での「有難う」という言葉は「感謝」の言葉ではなく、「申し訳なさ」を伝えていることが多い。私たちが代わりに介護の現場に「ありがとう」（龍）